まり，本多（1912）にみられるような大きなスケールの考察では福島県の植生はほとんど語れないことになる。ともあれこの段階で明らかなことは，福島県が常緑広葉樹林帯と落葉広葉樹林帯の境界部に位置するということである。

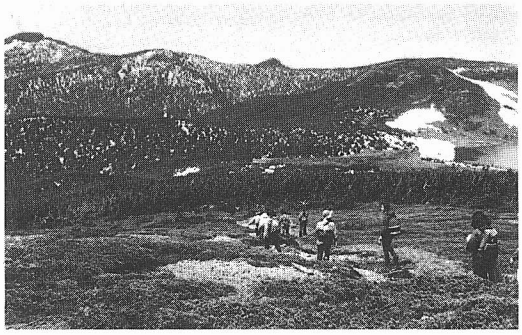

図 14　東吾妻山の山頂部北面
ハイマツ群落の下にアオモリトドマツ林が広がる。

垂直的帯序についてはさらに問題がある。上記の帯序からすると，明らかな丘陵帯は標高およそ 100 m まで，明らかな山地帯は 800 m 以上となる。またその上の亜高山帯は本州ではアオモリトドマツ林に代表され，その存在は奥羽山地では明瞭で，標高 1,500 m 以上に拡がる。しかし豪雪の越後山地ではアオモリトドマツの自生はなく，亜高山帯の標識は明らかでない。高山帯についても問題がある。高木林がみられなくなる所を森林限界というが，そこから上を高山帯とすると，その存否や標高は山によって，また同じ山でも方位によってさまざまである。例えば東吾妻山における森林限界は西面で約 1,900 m のところにあるが，東面では 1,970 m の頂上直下にせまっている。また，隣接する西吾妻山では 2,100 m の頂上に到っても，なおアオモリトドマツ林の繁茂をみる。恐らく，福島県の高山にみられる高山帯は気候的なものではなく，山頂現象にもとづく地形的なものであり，真の高山帯とはいえないものであろう。なお，多雪山地の亜高山帯については石塚（1978）の抄録があるので参照されたい。

2）気象資料からみた中間温帯

気候的極相として常緑広葉樹林の成立する森林帯は，気候的には暖温帯（暖帯）と呼ばれ，同じく落葉広葉樹林の成立する森林帯は冷温帯（温帯）と呼ばれる。しかし，前述のように，常緑広葉樹林の指標であるスダジイと，落葉広葉樹林の代表であるブナとは必ずしも分布が接しておらず，かなり離れていることがある。この，いわば中間温帯に想定される気候的極相はあまり明確なかたちのものではなく，地域によって異なる雑多な森林であり，概して中間温帯林などと呼ばれている。

吉良（1948，1949）は，スダジイの分布の北限とブナの分布の南限は概して一致し，それがまた温かさの指数 85 の等値線と一致することを見出した。温かさの指数とは，各月の平均気温のうち，5℃ 以上のものだけについて，それぞれから 5 を引いた値を積算したものである。温かさの指